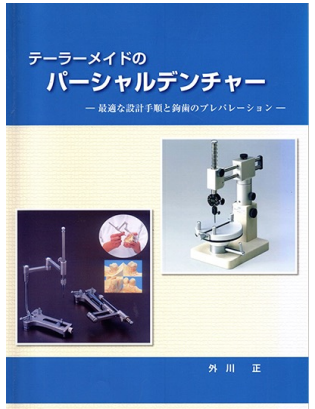
歯科開業医の談話室

01　上顎無歯顎印象採得
02　下顎無歯顎印象採得
03　日本人用無歯顎既製トレー
04　総義歯の難症例
05　クラスプと間接維持装置の配置
06　直接維持装置の設計
07　間接維持装置の設計
08　鉤歯の歯冠形態改造
09　大連結子の設計
10　根尖まで根管充填する方法
11　感染根管のプレパレーション
12　歯内療法用器具の操作方法
13　歯内療法器具の根管内破折防止
14　下顎孔伝達麻酔方法
15　歯科医師のための患者情報書類の書き方
16　半調節性咬合器の模型マウント方法
17　咬合理論
18　顎関節症
19　咬合病
20　変形性顎関節症
21　外側翼突筋の障害
22　円板後部組織の障害
23　中心位
24　中心位の採得方法
25　不正咬合
26　咬合分析
27　咬合調整
28　咬合調整のための診察・診断
29　咬合調整の方法
30　咬合調整の症例
31　咬合平面
32　咬合高径の理論
33　スマイルデザイン
34　アンテリアガイダンス
35　ロングセントリック
36　ブラキシズム
37　顎関節の雑音
38　オクルーザルスプリント
39　理想咬合



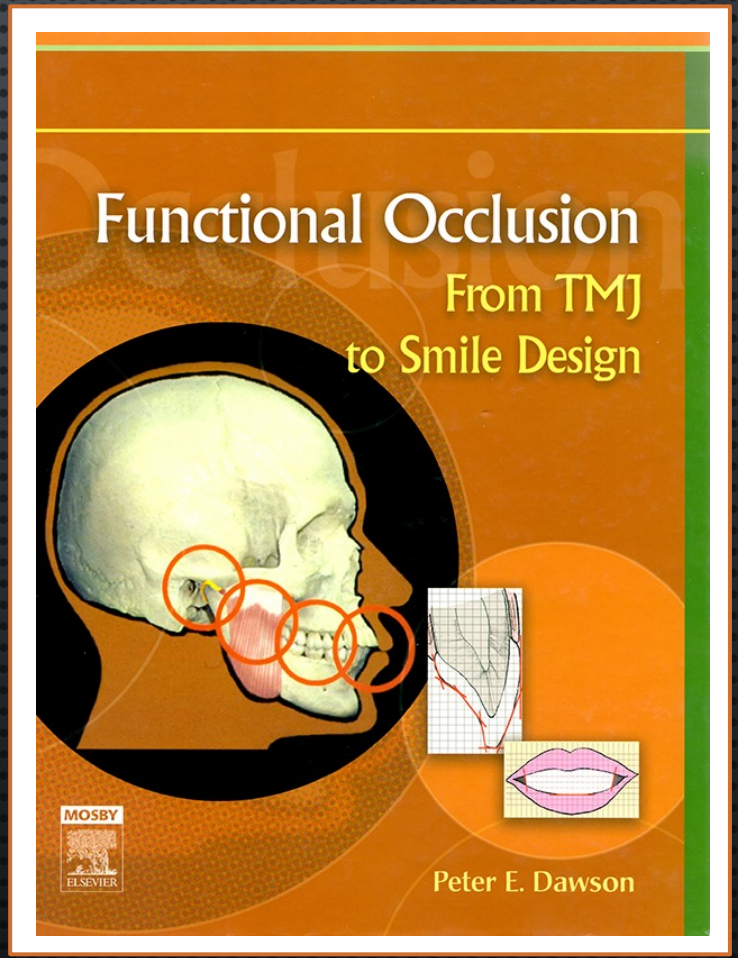
この談話室の記事に関係する著書を紹介します。
いずれもシエン社およびアマゾンにて購入できます。

【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

もくじ

症例１：顎骨骨折に起因する不正咬合
　　病歴
　　咬合調整
　　経過
症例２：非機能咬頭の咬合干渉
　　原因と治療方法
　　咬合干渉の除去
症例３：単純な咬合調整により不正咬合が解消
症例４：複雑な咬合調整が必要

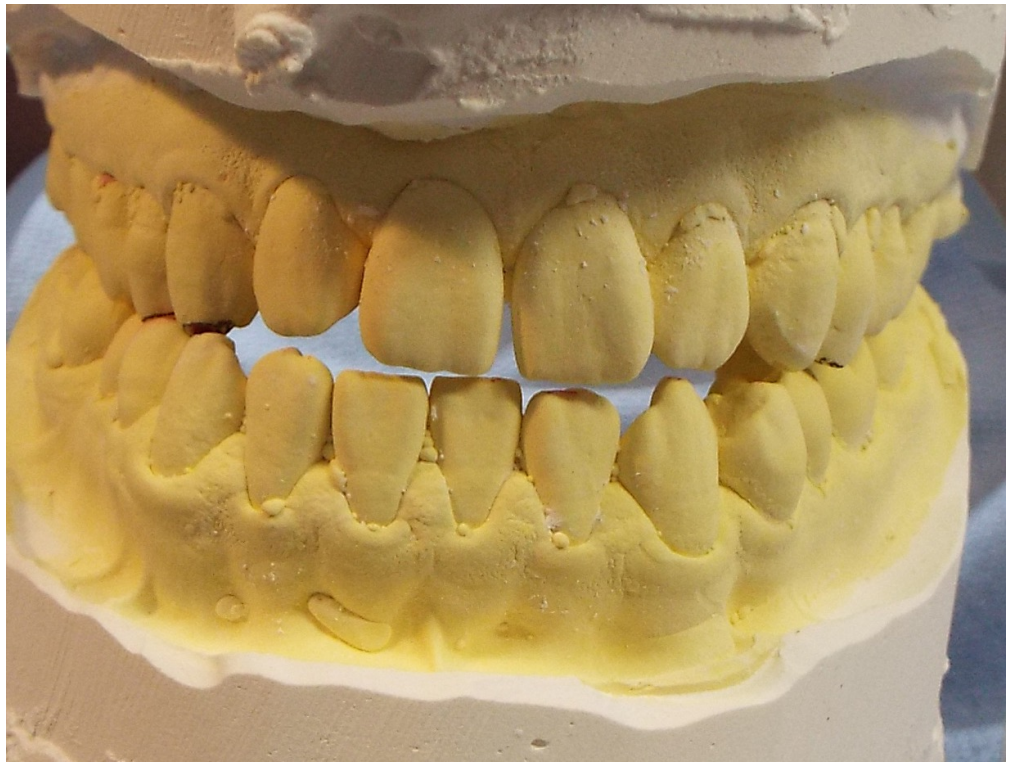


【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

症例1：顎骨骨折に起因する不正咬合

　患者さんは、35歳男性です。主訴は、咬合不安定感および咀嚼障害です。噛み合わせを楽にする目的でマウスピースの作製を希望しておりました。
　右は初診時の模型です。右側下顎枝関節突起頸部骨折のため、下顎の正中が右側にずれております。中心位にて、左右7番と右下3番が接触し、他の歯は咬合接触がない状態です。



【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

症例１：顎骨骨折に起因する不正咬合

病歴

小学生２～３年生頃、転んで下顎を強打し、一ヶ月間痛みましたが、放置したそうです。その後、右顎関節部にコキコキという音が生じるようになったそうです。２～３年間放置後、音が出なくなったそうです。高校2年生頃、自転車に乗っているときにバスに衝突し上顎を骨折しました。口腔外科にて手術を受けたそうです。上の写真は初診時のパノラマレントゲン写真です。左右下顎枝の長さに差があります。その原因は小学生時代の骨折と思われます。

【歯科開業医の談話室 30】

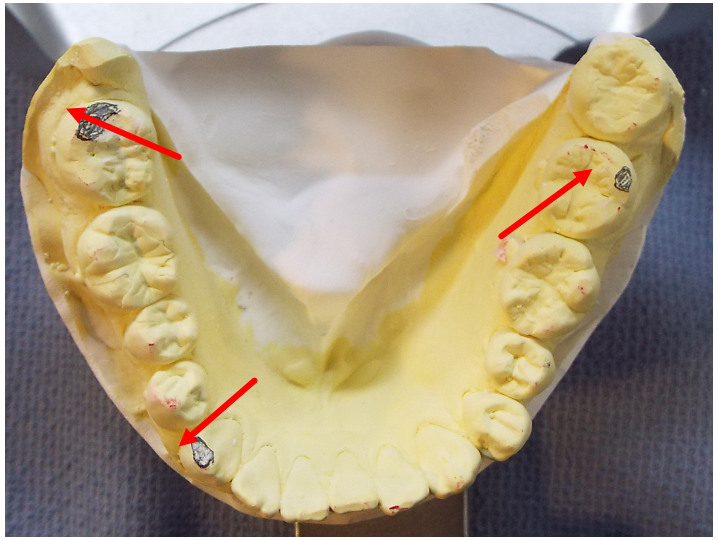
咬合調整の症例

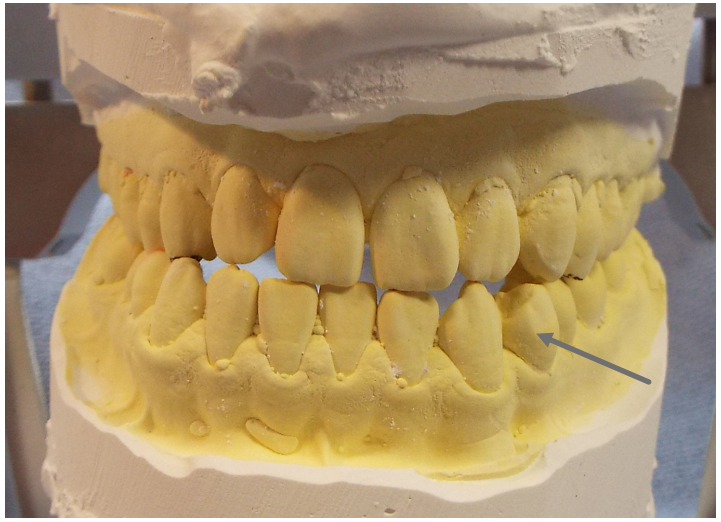
症例1：顎骨骨折に起因する不正咬合

治療方針

　模型上にて模擬咬合調整を行いました。その結果、右上の模型が示すように、左右7番と右下3番の黒く塗りつぶした部分（赤矢印）を削合することにより、右下の模型が示すように、中心位において左下4番（青矢印）を除くすべての歯の安定した咬合接触が得られることが明らかになりました。

　この治療目標として設定された咬合状態は、理想咬合ではないことから、矯正治療あるいは外科処置を検討する余地があります。しかし、患者さんが理想に近い咬合を獲得しても、その咬合から得ることができるメリットは、本人が負担する労力と費用に見合うことがないことから、上記3カ所の咬合調整にて治療を完了する治療方針を患者さんに奨めました。





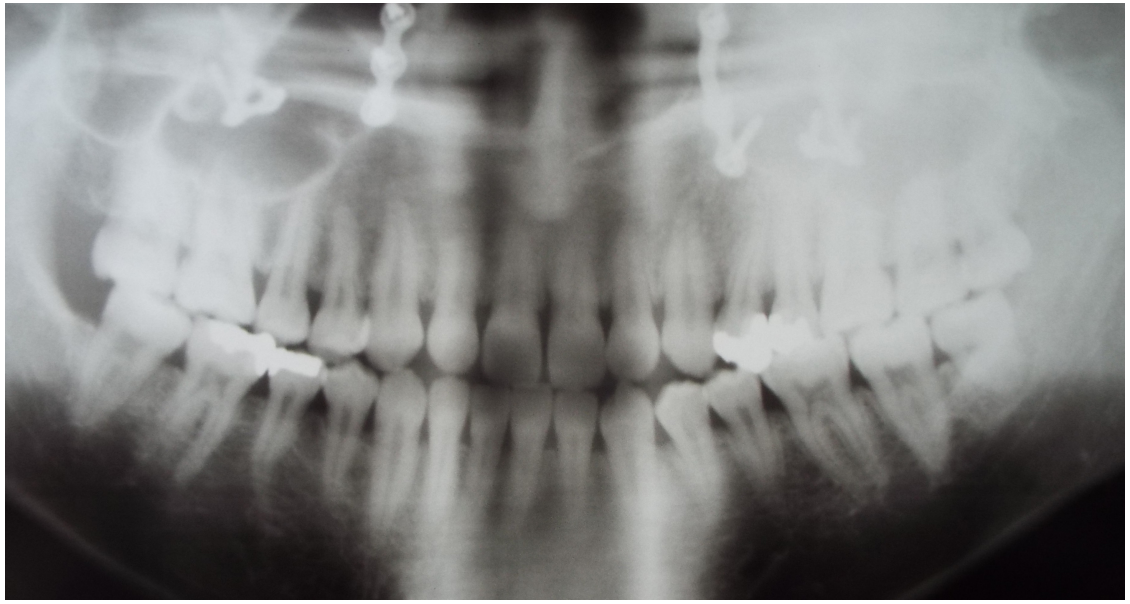
【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

症例1：顎骨骨折に起因する不正咬合

治療結果

右の模型が示すように、中心位において、左右臼歯とも安定した咬頭嵌合位を獲得できました。違和感は解消し、咀嚼能力が改善しました。咬合病は完治したと判断しました。下は、術後のパノラマレントゲン写真です。



【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

症例2：非機能咬頭の咬合干渉

患者さんは、68歳男性、歯科医師です。主訴は右下7番の強い冷温痛と咬合時痛です。右上の初診時レントゲン写真に異常所見は認められませんでした。患者さんの希望により、麻酔抜随・根管充填・歯冠補綴を行う治療計画を設定しました。アマルガムを除去したところ、歯冠部に歯髄におよぶ近遠心方向の亀裂を認め、その亀裂は髄床底に達しておりました。歯髄は、慢性炎症の状態でした。右下レントゲン写真は、根管充填後にテンポラリークラウンをセットしたところです。

【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

症例2：非機能咬頭の咬合干渉

原因と治療方法

　下顎の右側方運動に際して右下7番舌側咬頭に咬合干渉を認めました。下顎臼歯の舌側咬頭は、非機能咬頭で通常対合歯と接触しません。下顎を側方に動かした際に、下顎臼歯舌側咬頭が接触して夜間の歯ぎしりを誘発しておりました。夜間の歯ぎしりにより右下7番の舌側咬頭に水平方向の強い咬合圧が繰り返し加わったことから、歯冠部に亀裂が生じるに至りました。

　右上写真は、7番の咬合干渉を解消した後、右下6番の舌側遠心咬頭内斜面に同様の咬合干渉が生じている状態です。この状態を放置すると、7番と同様に右下6番の歯冠破折かあるいは歯周疾患を発症させます。そのため、右下写真の6番の遠心舌側咬頭内斜面を削合しました。その結果、犬歯の咬合誘導がスムーズとなり、咬合時の違和感と歯ぎしりは解消しました。

【歯科開業医の談話室 30】

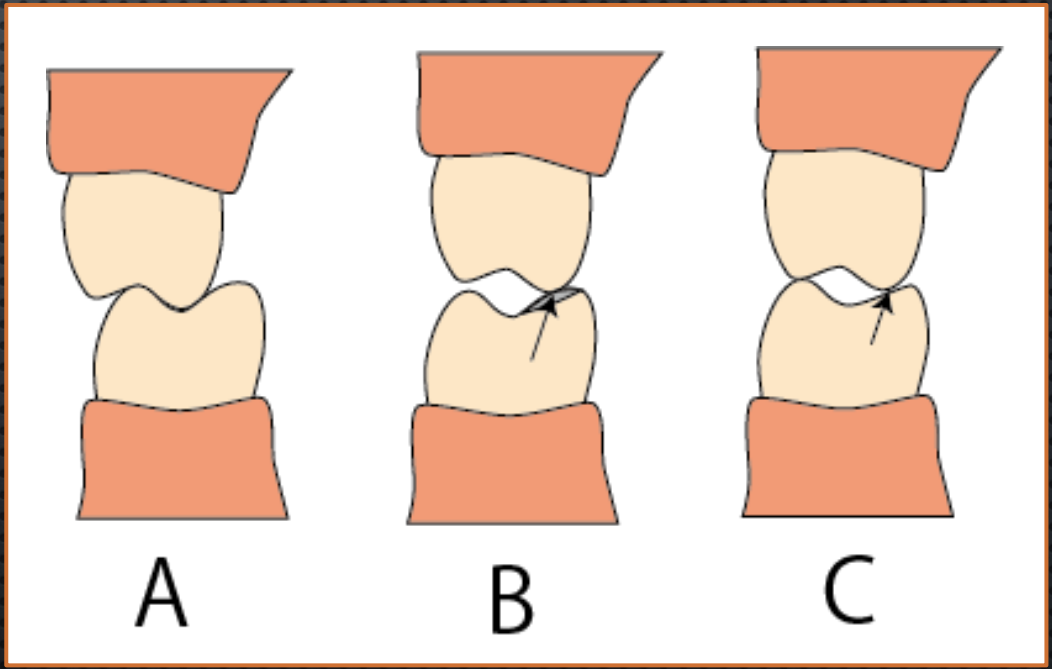
咬合調整の症例

症例2：非機能咬頭の咬合干渉

咬合干渉の除去

　イラストAは、臼歯が咬頭嵌合位で正常に咬合している状態です。イラストBは、下顎側方位において舌側咬頭の矢印部分に咬合干渉を起こしている状態です。イラストCは、干渉部を削除して正常な側方運動が可能となった状態です。

　咬合調整は、咬合干渉部を発見できれば、咬合面の一部エナメル質を削除する侵襲が少ない医療行為です。しかし、その咬合干渉部を発見することが容易ではありません。咬合調整は、診察・分析・診断に基づいて削合する部位と範囲を決定した後に行われます。咬合調整に関しては「とりあえず試してみる」という闇雲に行う治療方法は存在しません。



【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

症例3：単純な咬合調整により不正咬合が解消

患者さんは、38歳男性です。主訴は精神疾患を伴う咬合不安定感です。

右上模型の左上4番近心辺縁隆線の赤い印記部は、中心位の咬合干渉部です。

右下模型の左上2・3・4・6番咬合面の黒く塗りつぶした部分は、模擬咬合調整により中心位の咬合干渉部を削合した部位です。

左上4・6番の咬合干渉部を削合した後、左上2・3番の舌面部が新たに咬合干渉を生じたため削合しました。左上6番の舌側咬頭の赤い部分は、咬頭頂であることから、下顎6番の咬合面窩を削合しました。以上の咬合分析から、この咬合干渉は、比較的単純な咬合調整により解消されることが明らかとなりました。

この症例は、左上2・3・4・6番の歯冠補綴物装着時の咬合調整不足が原因で咬合病を発症したと考えられます。

【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

症例4：複雑な咬合調整が必要

次に複雑な咬合調整が必要とされる症例を紹介します。
患者さんは、53歳女性です。主訴は、強い顎関節痛です。
咬頭嵌合位が中心位からずれており、中心位において前歯が接触せず、全体的に咬合が不安定な状態です。右下模型咬合面の黒斜線部は、咬合を安定させる目的で行った模擬咬合調整の削合部分です。安定した咬合を得るためには、最終的にこれらの咬合調整が必要とされることが明らかとなりました。
実際の咬合調整においては、患者さんにこの模型を見せて削合箇所を説明し、その治療方針の了解を得た上で、模型の削合部位を確認しながら咬合調整が行われます。
なお、咬合調整のみで治療目標を達成できない場合があります。その場合は、全体的に咬合を再構成するいわゆるオーラルリハビリテーションの対象となります。

【歯科開業医の談話室 30】

咬合調整の症例

参考文献

1)保母須弥也：咬合学事典、書林、東京、1979.

2)Peter E. Dawson : Functional Occlusion From TMJ to Smile Design, MOSBY, St. Louis, 2007.

3)外川正：入門顎関節症治療のための咬合分析と診断，金原出版，東京，2009.

4)外川正，武田泰典，加藤貞文，阿部　隆，千葉健一，水間謙三，岡田　弘：いわゆる「顎関節症」から分離して扱うべき疾患ーとくに隣接医科との整合性を考慮してー，日本歯科評論，624：171～180，1994.

5)Niles F. Guichet : Occlusion, Anaheim, Calif. , 1977.

6)最新医学大辞典，医歯薬出版，東京，1987.

7)福井次矢：内科診断学第2版、医学書院、東京、2008.

8)Okeson JP : Long-term treatment of disk-interference disorders of the TMJ with anterior repositioning occlusal splints. J Prosthet Dent 1988 ; 60 : 611-616.

9)Dawson PE : Bad advice from flawed research. AGD Impact April : 30-31, 1995.

今回のテーマを気に入っていただければ 👍 をクリックしてください。
質問あるいは疑問がある方は、下の公開コメント欄にお書き下さい。
よろしければチャンネル登録をお願いいたします。

次回のテーマは、歯科開業医の談話室31番目「咬合平面」です。

その他の著書